

ICTを活用した 地理的観点からの 歴史授業の構築

日本私学教育研究所


研究成果報告会

2023年3月18日

※6月改定

立命館宇治中学校・高等学校

社会科 大井喜代



【研究の動機】

(1) ICT教育の必要性

- ① 高校「地理総合」を見据えた地理情報システム（GIS）を中学校の授業でも展開してみたい。
- ② コロナ禍におけるフィールドワークの難しさ
⇒本校の立地する宇治地域を学ぶ方法としてのICTの可能性を模索したい。

(2) 地理と歴史の横断型授業の必要性

中学1年の当初、授業内での「歴史は好きなんだけれど、地理はあまり…」という声。（歴史好きは「地理好き」の2倍！）

【地理授業における課題】

①地理専門の教員の不足

専門外の地理でGISを使用して授業を展開することの難しさ

※多くの社会科教員が専門外の地理を教えているという問題。

(2022年日本地理学会秋季学術大会)

②他府県から通う生徒もいる私立中学校でどう地域誌を教えることができるか。

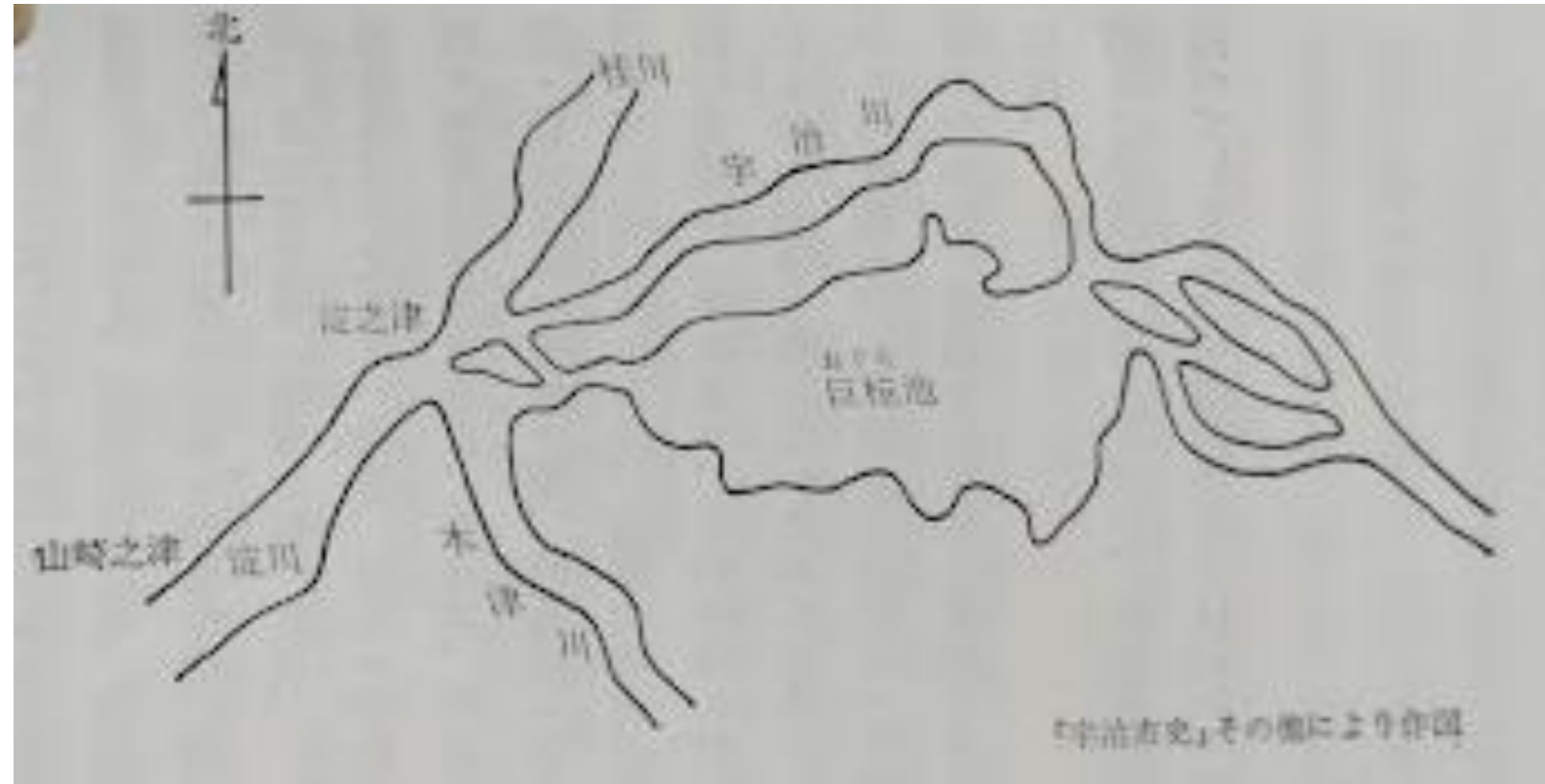
	京都府 KYOTO	奈良県 NARA	大阪府 OSAKA	滋賀県 SHIGA	兵庫県 HYOGO	国内 OTHERS	海外 OVERSEAS	総計 TOTAL
中学 JHS	256 64.5%	64 16.1%	69 17.4%	5 1.3%	2 0.5%	1 0.3%	0 0.0%	397 100.0%

地域誌のなかで淀川舟運に注目してはどうか？

- 生徒の通学圏は主に関西圏
- 古来から淀川とその支流である宇治川・木津川・桂川の河川交通が盛んであった。
- 淀川の舟運は織豊期に整備され、巨椋池を中心として近代まで発展した。

日野照正

『畿内河川交通史研究』
(吉川弘文館、1986年)



地域誌としての淀川舟運 + 日本各地を結ぶ北前船

・北前船の舟運

航路：北海道松前～酒田～日本海～瀬戸内海～大坂

「中国・四国地方」

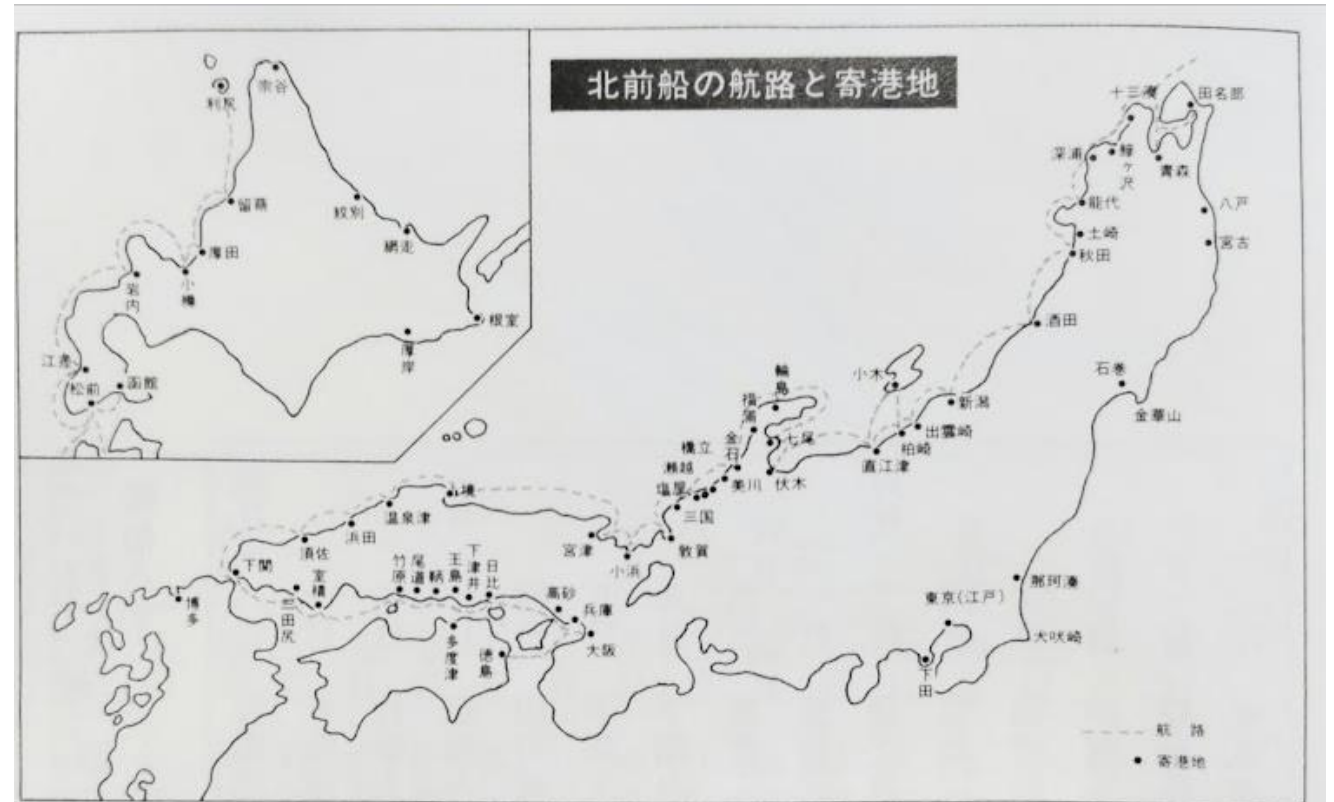
「近畿地方」

「中部地方（北陸）」

で北前船について学ぶ。

+

・淀川水系の舟運



牧野隆信『北前船とそのふる里』（1985、加賀市文化振興課）

【1学期】

地図やタブレットに
慣れる

2万5千分の1

地形図「宇治」

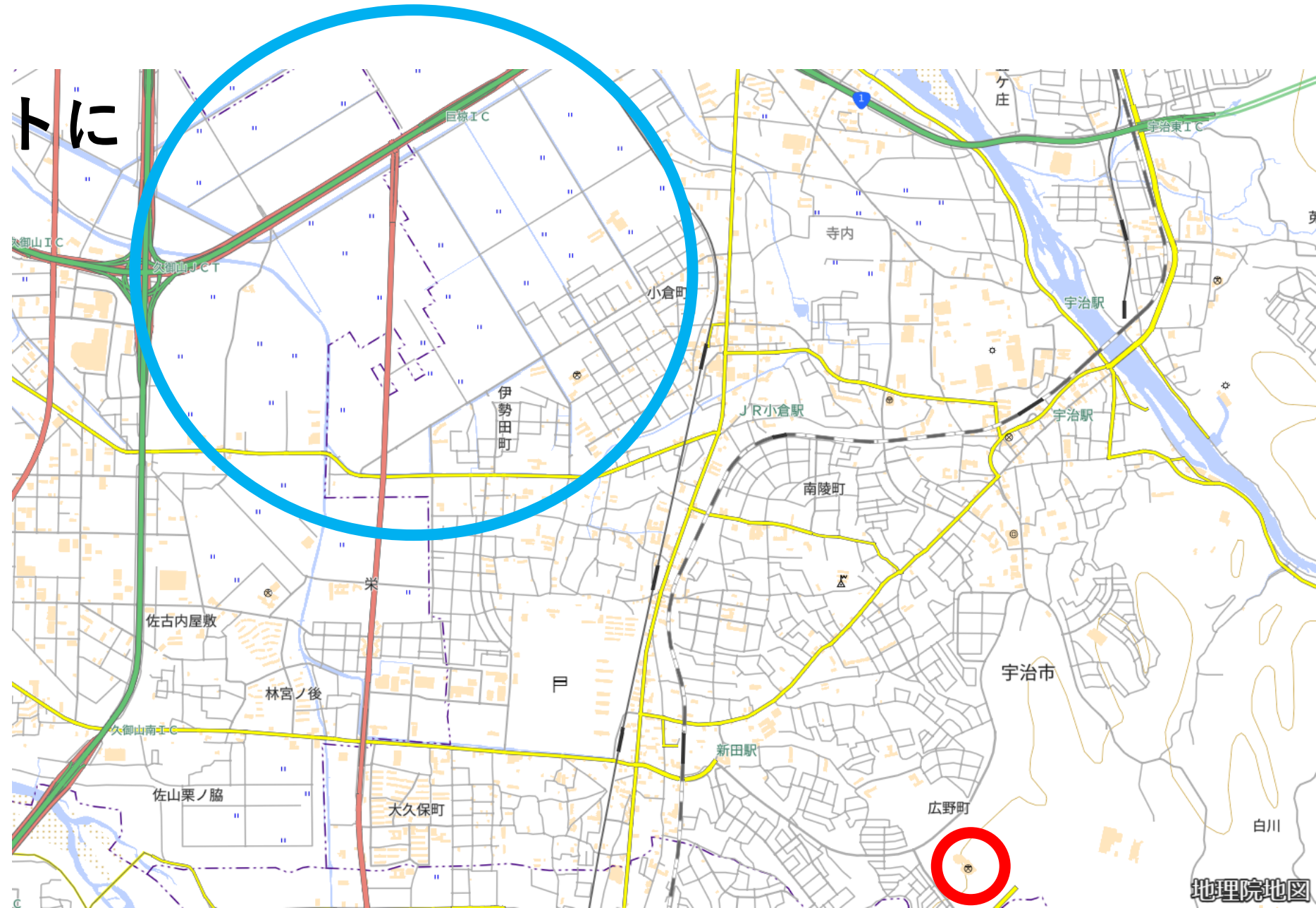
地理院地図など

例：

位置関係の考察

- ・ 宇治川
- ・ 鉄道
京阪・近鉄・JR

・ **旧巨椋池の干拓**



【2学期】

運ばれたものにも注目させる

1) 九州地方

関門海峡…古代から海外や日本海沿岸・近畿が結びつく拠点

2) 中国・四国地方

古代からの水運の発展（遣唐使・大輪田泊など）

⇒石油化学コンビナート・鉄鋼業が立地（原材料の運搬）

3) 近畿地方

京都市伏見区の清酒造り…原料の米が天下の台所である大阪に集積、伏見まで三十石船で運搬

4) 中部地方

NHK for school配信の動画「北陸はなぜ地場産業がさかんなの？」を視聴⇒北前船による伝統工芸品の運搬

【3学期】

中学1年生の冬休み課題

(本校で導入している授業支援アプリ**MetaMoJi Classroom**で提出)

「遺跡や歴史的建造物を調べよう」

- ①国土地理院地図から周辺地形や場所の特徴を読み取る。
- ②その場所に作られた理由を調べる、もしくは考える。

・冬休み課題の説明後、2, 3日のうちに普段課題を提出できない生徒たちが続々と提出⇒結果として事情のある生徒を除き、全員が期限内に提出

・年度末の感想でも「冬課題が楽しかった」という意見が目立った。※「好きな歴史と結び付けられて楽しかった」など

身近な地域の遺跡や歴史的建造物を調べよう！

締め切り：1月10日（火）19時

① 遺跡・建造物の写真・イラスト（1つ以上貼ろう！）

世界遺産 宇治上神社



実際に行ってまいりました！
二年前くらいからずっと行きたかったのでめっちゃ楽しかったです。
私の宇治上神社一押しポイントが、
下段二枚の写真、『桐原水』。
桐原水、とは室町時代宇治茶の栽培が盛んになり、宇治茶の象徴として宇治七名園が作られた。その際お茶の栽培に必要不可欠な水についても宇治七名水が定められ、桐原水はその一種。
現存する唯一の七名水。
こういうとなんですがただの水ですけどロマンが詰まって、ずっと桐原水を実際に見て、触れることが夢だったのでとても嬉しかったです。（初詣で混んでいてお水の写真は撮れませんでした…

リベンジ希望）

② 遺跡や建造物がつくられた時代

平安 時代

③ 解説

京都の世界遺産というと、世界的にも知られ十円玉の模様にもなっている「平等院鳳凰堂」と答える人が大半なのではと思います。ですが、今回私が調べるのは宇治上神社。

宇治上神社は平安時代、本殿が一〇六〇年、拜殿は一二一五年に建てられたことが「年輪年代法」により分かった。

現存する神社では日本最古といわれており、非常に歴史ある建造物なのである。

しかし、そんな宇治上神社だが、誰が建てたのかは定かではない。有力な説として藤原頼通が浮上している。頼通は死に対する恐怖から極楽浄土を作り上げようと平等院を建てたと言われている。



身近な地域の遺跡や歴史的建造物を調べよう！

締め切り：1月10日（火）19時

① 遺跡・建造物の写真・イラスト（1つ以上貼ろう！）



家康



秀吉



② 遺跡や建造物がつくられた時代

安土桃山時代

③ 解説

秀吉は息子の秀頼を家康から守るために大阪城を作ったのだと思います。大阪城は1583年に築城され始めていて、その近い時代で秀吉が戦っていたのは、秀吉 vs 家康の小牧・長久手の戦い(1584年の3月～11月)だからです。秀吉は家康と仲が悪く、ライバルでした。



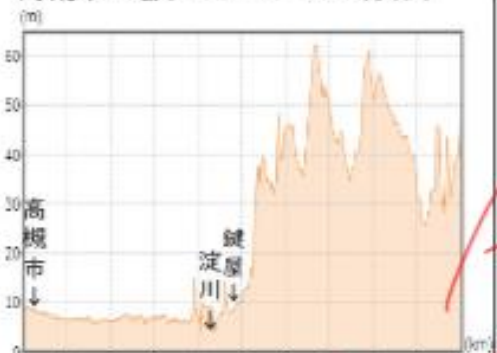
④下に国土地理院地図を貼る→遺跡・建造物のある場所に○をつけ、地形の特徴を簡単に書き込む。



⑤周辺の地形の説明

建物自体は平地にあり、南北に淀川が流れている。また、周辺には寺が多い。西側には淀川河川公園がある。そこには枚方船着場がある。南北には枚方大橋が淀川にかかっている。鍵屋の周辺には、淀川の大きな河川敷が東西に分かれて広がっている。淀川が一番低く、枚方市側が一番高い。高槻市側は平地になっている。

高槻市～香里ヶ丘までの断面図



⑥ なぜ、遺跡や建造物がその場所に作られたのか、調べる or 考えて書こう。

この建物は、正面は街道、裏口は淀川に面しており、船で訪れるにはとてもいい立地である。このことから、鍵屋が淀川を通る三十石船のために作られたことがわかる。また、この周りが豪華な歓楽街であったこと、周辺には旅籠やなどの施設もあり、船で訪れた人々に利用してもらう他、遊んで行ってもらい、それを町の収入源としていたと考える。さらに鍵屋が位置している通りは大名行列の通過地であったこと、近くに枚方宿場があることから、大名達にも利用してもらい、町をにぎやかにする目的もあったと考える。昔は伏見から大阪まで移動する際に、大量の物資や旅客を運ぶ場合、船による水上輸送は、人馬による陸上輸送よりも、安価で容易な方法であったため、淀川の周りに宿場を設けると、とても便利である。このことから、淀川沿いにこの建物が作られていると考える。

1月…GISを用いた授業

東京カートグラフィック社「地図太郎Lite for Education」使用
様々な地図を重ね合わせて画像を貼り、ファイルを作成できる。

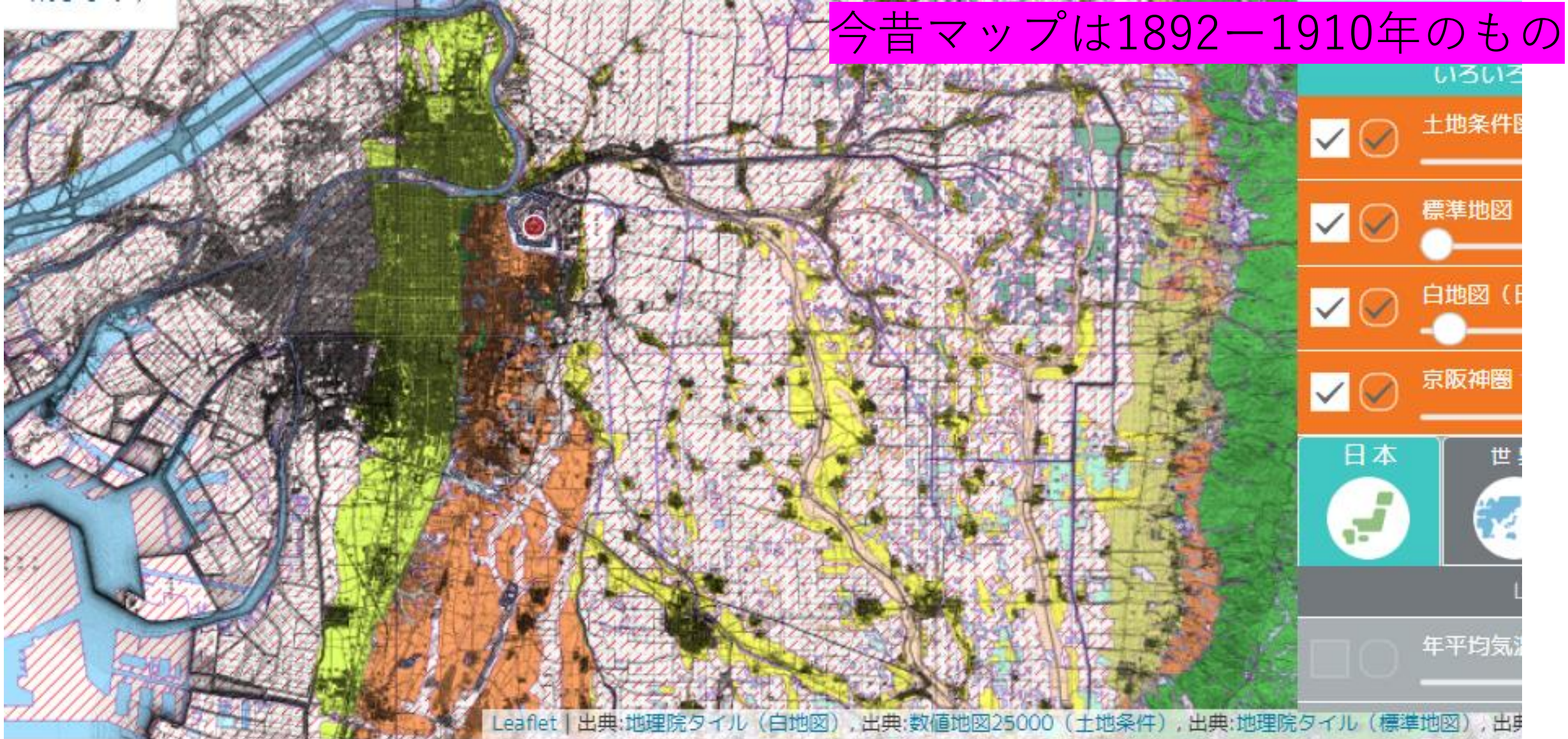
①色別標高図と
今昔マップを重ね
合わせ、写真を付
ける

→大阪城の立地
の説明



②土地条件図と今昔マップを重ね合わせる

→黄色の自然堤防沿いに村落が形成されてる



自分たちも「地図太郎」で ファイルを作成

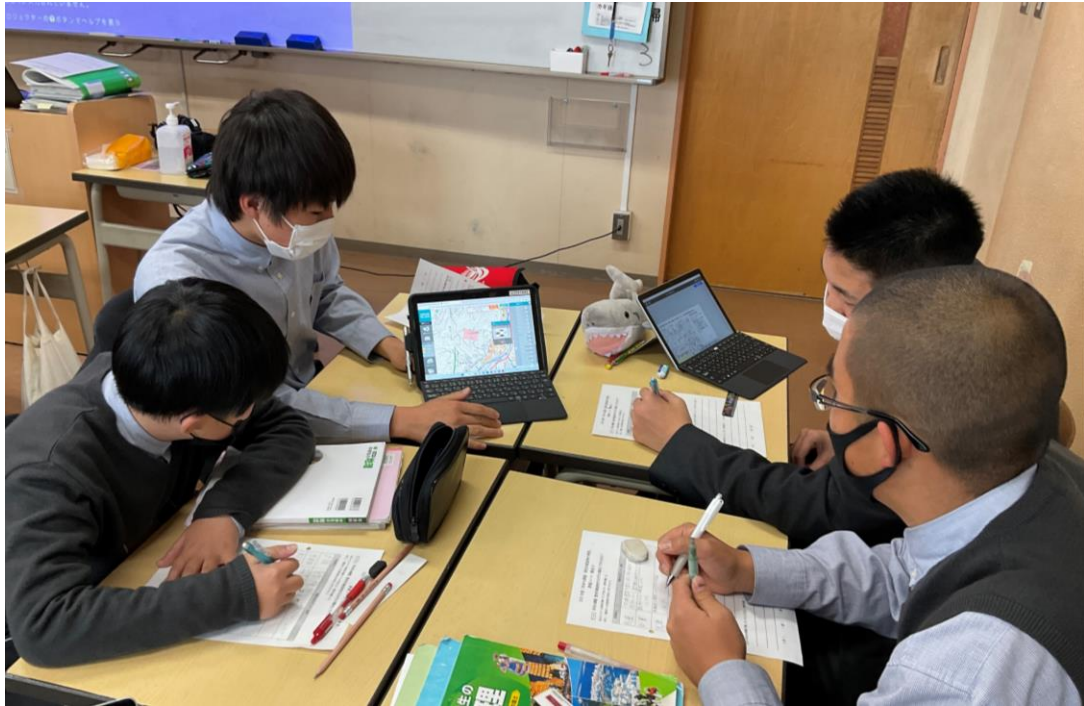
⇒ 班内で冬課題を発表

〔発表用ファイルづくり〕

色別標高図や土地条件図、今昔マップなどを重ねた上に、冬休みの課題で作成した「歴史的建造物の写真と解説」ページが表示されるよう発表用ファイルを作成

校内研修会として管理職や他教科の先生に見学してもらおう。





班内での発表会のようす

「地図太郎」発表用ファイルは作成できたが、使いこなせない生徒は地理院地図やグーグルマップでの発表も可とした。

…それぞれの地図の良さを比較できる

※「地図太郎」を発表に使用した生徒は各クラス10名～15名。

【生徒たちの感想】

- 「地図太郎の操作が非常に難しかった」…多数
- 「地図太郎Lite」を使用して発表した生徒

「地図太郎だと色付きで高低差の表示や、昔の川の流路などを重ね合わせて分かりやすい説明ができるので、歴史的な背景を話すなら地図太郎は便利だった」

- 上手く発表できた生徒の良かった点を挙げ、「発表のやり方を勉強することができた」など



個人差が大きく表れており、教員側も含めて、今後は早い段階から準備をして操作に慣れる必要がある。

今後の探求授業などでGISが活用できることを解説

その地域を理解するためには…

- どんな地形や自然環境か？
 - どう発展してきたのか？
 - 他地域とどのような交流があったのか？
- など、
地理的なものの見方が重要になってきます。

⇒そこからどう発展できるかを見出す！

**身近な地域の地形や
歴史が今の私たちの
生活を形作っています。**

**自然を守り、そして
地域活性化のヒント
を見つけていこう！**

【本研究のまとめと今後の課題】

《生徒の年度末の感想》

- ・自分の知っている地域や歴史との関連が面白かった。
※社会科＝暗記と考えていて、苦戦した生徒もいた。

《本校社会科教員の反応》

- ・今回の研究授業におけるGISの活用の事例をみて、
6年一貫の新たな教育計画の枠組みを作成しようという動きがあった。

【今後の課題】

年間の授業計画の練り直しが必要。木津川、瀬田川なども含めた舟運と、地域の活性化を図るような授業を構築していきたい。